

ふくしま 授産事業振興会だより

第26号

平成27年3月発行

(発行者)

福島県授産事業振興会
授産事業支援センター
<http://www.f-jusan.jp>

〒960-8012 福島市御山町8番30号(福島県保健衛生合同庁舎4階) TEL 024-563-1228 FAX 024-563-1234 E-mail: info@f-jusan.jp

🌿🌿🌿🌿 **積極的に工賃向上に取り組もう！** 🌿🌿🌿🌿



福島県授産事業振興会

会長 三浦 正一

会員の皆様には日頃より当会の運営及び事業推進にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

東日本大震災からまもなく4年が経ちます。風評被害はまだ続いており、震災の痕跡もまだ生々しく残っているものの意に反して震災そのものが風化傾向にあり懸念されております。

そうした中で、昨年は会員の皆様が工賃向上に向けて真剣に取り組む姿が目立った年であったと思います。コンプライアンス研修や売れる売り方研修、食品表示説明会など日本セルフセンターと連携して企画した各種研修会等に積極的に参加し、また、自主製品の販売会でもアンテナショップ「福祉の店」への出店、県庁販売会、初めて開催した東京日本橋での販売会、さらには毎年ご支援をいただいている福島銀行での販売会では最大規模の60を超える施設が出店したことなど、例年になく多くの施設が販売会に参加し、販路の拡大に努めていただきました。

一方、受託、園外作業では、便利屋事業で順調に実績を伸ばしているところもあれば、企業業績の不振等により受注減のところもあり、物品販売も含めて施設間で好不調の波も見られました。

当会としましては、工賃水準の底上げを図るために、専門家による指導助言を行うとともに、平成25年4月から施行された「障害者優先調達推進法」に基づく調達目標の達成に向けて関係方面へ情報発信や働きかけなど会員の皆様と連携して利用者の処遇改善に向けた取り組みを積極的に推進して参りたいと考えておりますので、一層のご支援、ご協力を節にお願いいたします。

気持ちのバリアフリープロジェクト「助け合い普及支援事業」 を展開しています。

■気持ちのバリアフリーとは

支援が必要な人ではなく、助け合いの気持ちを持っている側の人「わたしは何ができるかわかりません。でも、困ったときにはお声をかけてください。」という、日本人としてのホスピタリティ（思いやり）の意思表示のことです。

- ・震災で多くの人に助けられここまで来られた福島。復興はまだ続いていますが、私たちは元気です。
- ・支えてくれた人たちに「ありがとう」が言いたくて始めた気持ちのバリアフリープロジェクト。
- ・困っている人が声をかけやすい社会にするために、助けが必要な人が社会に出ることの楽しさを知ってもらうために、子どもから大人まで誰でもできるボランティアです。

◎どんなことをすればいいの

シンボルマーク「あたまがふくしまちゃん“こまったらこえかけて”」のグッズを身に付けてもらい、困った人が気軽に声をかけやすい雰囲気をつくる運動です。グッズを購入することで、障がい者の工賃向上の支援にもつながります。次年度に向けてシンボルマークの新しいグッズを考案中です。



クリアファイル
(色つき・透明)



缶バッジ
(クリップ付き)



缶バッジ
ストラップ

※グッズは福島県授産事業振興会のホームページから購入できます。

第20回福島県授産事業振興会通常総会について

平成26年5月30日（金）に福島市民会館において、第20回福島県授産事業振興会通常総会が開催されました。総会には、会員117名のうち、112名（委任状71名含む）が出席し、菊地洋子副会長が司会を務め、添田浩副会長の開会のことばで進行しました。

はじめに、三浦正一会長よりあいさつがあり、障害者優先調達推進法が施行されて施設には追い風が吹いている。この機会を逃さずに支援員に頼るだけでなく施設自らも行政や団体など各方面に働きかけて欲しい。と、施設からも積極的な働きかけを促す発言があった。次いで、来賓の古山幸一福島県保健福祉部障がい福祉課長（県保健福祉部長代理）、安部光世福島県社会福祉協議会事務局長（県社協会長代理）から祝辞が述べられ、立谷亨氏（自立研修所ビーンズ）を議長に選出して議事が進められ、いずれも原案のとおり可決承認されました。

本総会の提出議案は次のとおりです。

- 議案第1号 平成25年度一般会計事業報告書及び収入支出決算書の承認について
- 議案第2号 平成25年度特別会計事業報告書の承認について
「障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業」・「授産施設等震災復興支援事業」
- 議案第3号 平成25年度特別会計収入支出決算書の承認について
「障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業」
- 議案第4号 平成25年度特別会計事業収入支出決算書の承認について
「授産施設等震災復興支援事業」
- 議案第5号 平成26年度事業計画書（案）について
- 議案第6号 平成26年度一般会計収入支出予算書（案）について
- 議案第7号 平成26年度特別会計収入支出予算書（案）について
「障害者就労支援事業所支援コーディネーター事業」
- 議案第8号 平成26年度特別会計収入支出予算書（案）について
「授産施設等震災復興支援事業」



三浦会長あいさつ



来賓祝辞
（古山県障がい福祉課長）

展示即売会・アンテナショップ

◆「福祉の店日本橋」の開店……東京ではじめて開催

日本セルフセンターと連携して、10月31日（金）から11月3日（月）までの4日間、「福祉の店日本橋」として、東京の福島県アンテナショップ「日本橋ふくしま館」で障がい者施設製品の販売会を開催しました。本会が主催した首都圏での販売会は初めてで、施設の職員も販売に来られ熱心に自主製品のPRを行い、その効果もあって人気を集めていました。消費者は、味や原材料、成分に関心があり、施設の方でないといけない部分があり、丁寧な説明で安心して購入していく姿がみられました。



◆大展示即売会 in 福島銀行……最大級の規模で開催

今回で3回目となる展示即売会を、12月12日（金）から14日（日）までの3日間、福島銀行本店で開催しました。参加施設は県内全域から過去最大の67施設が出展しました。

うどん、焼き芋、たい焼きなどの模擬店コーナーや歌と踊りのステージイベント、さをり織り、革皮刻印、クラフト・しめ縄体験などの実演・体験コーナーも設け大盛況でした。

会場には、ゆるキャラコンテストで東北一位に輝いた“あたまがふくしまちゃん”も登場し、スーパーモデル並みの人気で来場者から熱い視線を受けていました。

販売額も過去最高の200万円の大会を達成し、福銀さんの熱烈なご支援と施設の皆さんの熱い思いに感謝です。



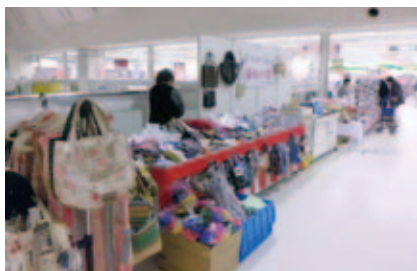
◆アンテナショップ「福祉の店」……出店施設が増加

県内3方部で、毎年2回づつアンテナショップを開催していますが、今年度はどの会場でも出店する施設が昨年より増えました。会場によっては、商品の陳列スペースが足りないところもありましたが、出店した施設の全ての商品(品目)を多くの来場者に見せるために販売スタッフの皆さんは工夫を凝らして陳列していました。

	開催期間・(参加施設数)	開催期間・(参加施設数)
• いわき会場「鹿島ショッピングセンターエブリア」	①26. 7. 8～21 (33)	②26.11.14～26 (36)
• 郡 山会場「イトーヨーカドー郡山店」	①26. 6.11～22 (37)	②27. 1.22～2. 2 (35)
• 福 島会場「中合福島店」	①26. 8.21～26 (40)	②26.10.17～22 (39)



(いわき会場)



(郡山会場)



(福島会場)

授産施設新製品(商品)開発コンクール・ 授産施設関係職員等研修会

平成26年度授産施設新製品(商品)開発コンクール及び授産施設関係職員等研修会が平成27年1月31日(土)～2月1日(日)の両日にわたり「飯坂ホテル聚楽」(福島市飯坂町)で開催しました。

コンクールには、27施設(過去最高の21年度と同じ)から47点の応募があり、次の商品が入賞しました。

●金	賞	立ててみて～ベコ法師【ハッピーロード】
●銀	賞	会津木綿バックセット【すずらん工房】
●銅	賞	塩レモンシフォン【ほほえみの間】
●福島民報社賞		濃厚ガトーショコラ【社会福祉法人こころん】
●福島民友新聞社賞		野馬追いマフラータオル【自立研修所ビーンズ】



審査会



表彰式



金賞



銀賞



銅賞

研修会は、県内の施設・関係者92名が参加して開催されました。

1日目(31日)は、福島県障がい福祉課 坂中聖子様より「就労継続支援B型事業所の工賃等に関する調査」についての行政説明、日本セルフセンターの林正剛様より、「復興支援に向けた日本セルフセンターの取り組み」の実践報告が行われました。

2日目(1日)は、東京電力の原発事故で避難を余儀なくされた4つの施設から「原発事故による避難後の施設の現状から再生を目指して」と題して、当時の避難生活の中で事業再開にこぎつけた過程など施設が体験した苦闘の軌跡と今後の再生計画について発表していただきました。

また、飯嶋茂様(NPO法人麦の会代表理事)より、基調講演「パンとクッキーを作り続けて20数年、その経験が工賃アップのヒントになれば」と題して、仙台市でパンとクッキーの製造販売で平均工賃が5万円を達成している「コッペ」(B型事業所)の営業内容、経営理念など大変貴重なお話をいただきました。



〈避難施設からの報告～発表者(左から)〉

- NPO 法人あおば
(双葉町→福島市) 高山 文子 氏
- NPO 法人コーヒータイム
(浪江町→二本松市) 七條 弘子 氏
- (社福) 友愛会ワークセンターさくら
(富岡町→群馬県高崎市) 新妻 哲二 氏
- おおくま共生園
(富岡町→田村市) 秋元 平和 氏

施

設

紹

介

就労継続支援B型事業所 こんぺいとうの会 ほっこりcafe まあぶる

(郡山市)



はじめまして こんにちは!!
「ほっこりcafe まあぶる」です。私たち、こんぺいとうの会は、生活介護からスタートし、その後、自立訓練の「ぽっけ」を開所し、今年4月より就労継続支援B型事業所を開所し、5月14日に郡山市八山田に「ほっこりcafe まあぶる」をオープンしました。利用者さんが自立した日常生活、または、社会生活を営む



ことができるよう就労の機会を提供し、みんなが生き生きとそして笑顔で仕事ができる事を目指しています。

まあぶるとは…皆さんは、さまざまな色が混ざり合ったチョコレートを想像しますか?それだけではなく、「原石を磨く」という意味もあります。様々な色(個性)を持った、個人(原石)を最大限に磨き輝かせることができたら嬉しいのです。

まあぶるでは、ヘルシードライカレーのランチセット、クッキー、レアチーズケーキ、コーヒーゼリー(水出しコーヒーを使用)を毎日手作りでお出ししています。ヘルシードライカレーは、油を極力使わず、たくさんの野菜をじっくり炒めて旨みを引き出し、スパイスとしょうがの辛みを効かせた夏にはもってこいのランチとなっています。ホットコーヒーは、オリジナルブレンドになっています。一日かけてゆっくり抽出した水出しアイスコーヒーは、苦味が少なく、こくと甘さがきつと皆様をほっこりさせてくれることと思います。



何より利用者様の笑顔にほっこりして頂ければ嬉しく思います。

昨秋にはトマトスープパスタも登場しています。

お楽しみに!!ぜひいらしてください。お待ちしております。(26.10.18入会)

就労継続支援A型事業所 株式会社 かるみあ

(郡山市)



こんにちは、就労継続支援A型事業所【かるみあ】です。当事業所は平成25年11月に定員10名でスタートし、現在は定員20名で様々な業務を行っています。

弊社で行っている業務内容を紹介させていただきますと、工場等から頂いている製造系のお仕事、地域の広報誌等の梱包、封入の作業、点字入りの名刺を作成し、販売するなど様々な業務を行っています。

入社された社員(利用者)が会社員として働いていける環境、人材づくりをしていく事を目標に業務

体制を整備しながら、基本的なビジネスマナー等を取り入れて運営しております。

今後も幅広い業務内容を取り入れ働いている社員が「働く」という楽しみ、やりがいを感じる会社として活動していく予定ですので、今後、宜しく願い致します。

(26.4.1入会)



生活介護事業所 永遠の里

(須賀川市)



この度、福島県授産振興会に入会させていただきました、「永遠の里（とわのさと）」です。当事業所は、平成23年4月より知的障害者・精神障害者・身体障害者の方を対象に、須賀川市で生活介護事業所を運営しています。

生活介護事業所の主な作業の内容は、空き缶・ペットボトルの分別・リサイクル作業、内職作業（割箸）

を行っています。リサイクル作業は、地域の方々や利用者さんのご家族からいただいたものや、職員の家で集めた空き缶をアルミ缶とスチール缶に分別したものを業者の方に持って行き、リサイクルしています。

今現在は、自主製品はありませんが、授産事業振興会に入会させていただいたのをきっかけにして、利用者さんが楽しく作業できる様な自主製品などを考えていければと思います。

永遠の里に通所している利用者さんは明るく、お話がするのが好きな方が多いので、みんなで楽しく作業をしています。作業時間以外は、みんなで散歩に行ったり、カラオケをしたりと、元気に楽しく過ごしています。

これからも、利用者さんが元気に楽しく作業をしたり、さまざまな活動に参加出来る様に支援していきたいと思っています。

宜しく願い致します。(26. 11. 18入会)



障害者支援施設 けやきの村

(福島市)



昭和47年4月に重度身体障害者授産施設として30名の入所定員から始まり、平成19年2月に障害者支援施設として生まれ変わりました。現在、施設入所支援事業所定員88名、内・生活介護52名・就労継続支援B型50名・就労移行支援10名、他にも・障害者短期入所・ヘルパーステーション・特定相談支援を展開しています。場所は福島市飯坂町の中野不動尊のすぐ近くにあり自然豊かな所です。作業の内容は、安全ヘルメットの内装組立・人参型抜き・じゃがいも皮むき・自動車スイッチ部品の素地差し・部品箱組立・シール貼り・緩衝材梱包・生地のだい詰めを下請け作業しています。自主生産品としては印刷があり、名刺・はがき・封筒を印刷しています。特に名刺はセールスの甲斐があり徐々に注文が入ってきています、格安に提供させて頂いておりますので皆さんも是非ご用命ください。他にも自主生産品の開発を試行錯誤で取り組んでいるところで工賃向上に向けても職員一丸となって取り組んでいます。秋には「けやき祭」(地域との交流イベント)を開催し、毎年沢山のお客様をお迎えして、利用者さんや家族・地域の方々・職員が一緒に出店やコンサート等を楽しんでいます。(26. 4. 1入会)



就労継続支援B型事業所 ハッピーロード

(会津若松市)



皆様こんにちは。当事業所は平成25年5月に会津若松市内に開所しました「就労継続支援B型事業所 ハッピーロード」です。

障がいを持った方々が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう就労の機会・生産作業・その他の活動を通じて、知識及び

能力向上のために必要な支援をおこなっています。

主な活動内容は、内職のアダプター磨き、細かいキズや線切れの確認をおこない専用ワックスを付けた布で丁寧に仕上げています。古布を利用した小物製品作りでは、昔から重宝されてきた着物を優しくほどき、ひとつひとつ思いを込めて仕上げています。商品種として和柄シュシュ・ブックカバー・和柄ネックレス・ランチョンマット・慶弔用ティッシュカバー等・他があり、注文に応じ対応もしています。



その他施設外就労で除草作業なども行い、どの作業もみなさん自分のペースで楽しく、お互い支えあって充実した日々を送っています。その他季節に応じて、芋煮会・クリスマス会等も実施していますので、利用者様も楽しんで過ごしています。

会津に来られた際には、気軽にお立ち寄りください。(26. 5. 21入会)



就労支援継続B型事業所 一般社団法人 ひまわりの家2

(相馬市)



(イベント参加)

者的な立場の人はいません。ここでは誰もがのびのびと自分の考えで過ごしています。私たちは自由こそ最善の治療と考えています。

ひまわりの家2は、仕事を通して地域社会との繋がりを持ち、社会参加が実感できる「地域社会に開かれた施設」です。

自分の考えや体調、自分の能力に合わせて仕事を選べるように、様々な仕事を行っています。(26. 5. 21入会)

ひまわりの家2とは、一般企業への就職が困難な障がい者に対して、就労の機会を提供し、その知識と能力の向上に必要な訓練等を行う作業所のことです。

ひまわりの家2では、クッキーの調理・販売やボールペン等の組立、資源回収や野菜販売といった作業を行っています。

ひまわりの家2では、利用者の人格を尊重し、「自分のことは自分で決める」自己決定を基本に支援を行っています。ひまわりの家には規則もなく、指導



(ボールペンの組立)



(資源回収)



(お菓子作り)

指定障害福祉サービス事業所 一般社団法人シャローム福祉会 ペーシック憩

(福島市)



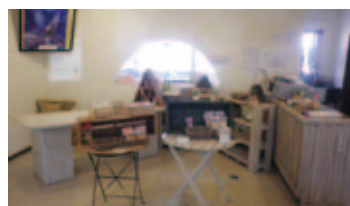
(建家外観)

みなさまこんにちは。ちょっと事業所名が長いですね。私たちは「一般社団法人シャローム福祉会」という法人の中にあります、「ペーシック憩」という指定障害福祉サービス事業所です。ここで「シャローム」とか「ペーシック憩」という耳慣れない言葉が出てきましたね。まず「シャローム」というのはヘブライ語で「平和」や「平安」を意味する言葉。

そして当事業所名の「ペーシック憩」は、人間の基本（ペーシック）には必ず安心するもの（憩）が存在しないといけませんよ！という意味合いから名付けられました。平成24年4月設立から、一貫している事業所目標としまして「障がいを持つ人も、持たない人も自分らしく生きるための場作り」のもと、大きく三つの授産事業を柱として運営しています。一つ目に木工製品、二つ目に焼き菓子製品を通したものづくり事業、三つ目にホームページ制作等の情報処理事業です。福祉事業所には珍しい、利用者に対して売上金額の開示等も積極的に行い「どうすれば収益を確保できるか!？」等本質的なテーマを掲げ、職員・利用者一体となって取り組んでいます。又、収益活動とは別に、遠方への研修旅行や各イベント等行っております。お問い合わせや製品のご用命がございましたら、お気軽にご連絡下さいませ。(26. 5. 27入会)



(木工班風景)



(お菓子班風景)



(パソコン風景)

就労継続支援A型事業所 株式会社 福島あすなる会

(郡山市)



私たち株式会社福島あすなる会は、一般就労を目的とした就労継続支援A型事業所です。

清掃部門、飲食部門、高齢者福祉部門に分かれており、どの部門もお客様に喜ばれる仕事を目指し日々励んでおります。

清掃部門は、高齢者施設の居室清掃や建物内外の環境整備を行っております。飲食部門は、高齢者施設への昼食提供を中心に、彩り・味など工夫を加えてお届け

しております。高齢者施設部門は、施設内の清掃や昼食の配膳下膳などを行い、高齢のお客様に少しでも喜ばれるよう笑顔を大切に仕事をしております。

今まで12名の方が、一般就労しています。職種は様々ですが、一日一日の積み上げの成果、そして周りの皆様の支えであると感じております。

私たち支援員は、利用者の皆様との様々な話を通して、お互いの信頼関係を築き、コミュニケーションを少しずつ深めていきます。一人でも多くの利用者様が一般就労できるように支援をして参りたいと思います。福島あすなる会をよろしく願い致します。(26. 5. 30入会)



NPO 法人 あづまっぺ

(浅川町)



みなさんこんにちは。NPO 法人あづまっぺです。

いつも 1 度では聞き取ってもらえない施設名の「あづまっぺ」とは、「あつまろう」がなまった方言です。施設に人が集まって欲しいという思いが込められています。

あづまっぺは平成23年10月に浅川町手をつなぐ親の会、石川町手をつなぐ育成会の方々と地区の方のあつい思いがあり開所する事ができました。主な作業内容は、彼岸花作りと 2 社の下請作業です。利用者 1 人 1 人にあった作業が提供できるように心がけ支援を行っています。

彼岸花は浅川町里白石地区に伝わる、昔ながらの伝統を引き継ぎ、竹の伐採から色つけまで 1 年を通してひとつひとつ丁寧に手作業で生産をしています。春彼岸が近くなりますと直売所などで販売をしていますのでいかがでしょうか。

下請作業は、樹脂製品のスジ取り作業と附箋の形成作業を行っています。納期や製品の不良が出ないように気配り、目配りを心がけ作業をしています。

施設は開所してから 4 年目に入りさらなるステップアップが出来るように、これからも利用者の方々と職員が一丸となり頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。(26. 10. 10 入会)



(竹割り)



(花の組み上げ)



(色つけ)



(目標50,000本)

就労継続支援B型事業所 株式会社 あゆみ工房

(福島市)



株式会社あゆみ工房は、平成23年より福島市の農村地域で就労継続支援B型事業所として開設したところです。

「仲間と共に農作業を行い、収穫の喜びを体験するとともに自然を愛(あい)し、自らの夢(ゆめ)と未来(みらい)に向かって共に歩(あゆ)み続けます」を理念として活動を始めました。

震災で農作業ができなくなり、弁当の配食サービスを中心とした作業を行っています。グループホームの配食や依頼を受けた弁当製作を行い、米粉団子など研究して商品化しています。作業を通して食材の買い物訓

練や弁当製造を行い、技術向上を目指して進めています。又、多彩なイベントを企画して、楽しく、集中力を発揮して作業を行っています。

現在は、障がい者向けの福祉・医療・介護の三位一体での連携を密にしたサービス提供をめざし、グループホーム、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションの事業を展開しています。(26. 10. 28 入会)



情報コーナー

◎食品表示法がいよいよ施行されます。

食品表示法が2013年6月28に公布され、公布から2年以内の本年の6月28日までには施行されます。6月には最初のアンテナショップが郡山で開催されますが、会場店舗に迷惑がかからないよう、正しい表示がされていない商品は販売しませんのでご注意ください。

速やかに適正表示の励行をお願いします。表示方法に不明な点がございましたら最寄りの保健所にご相談ください。

事務局通信

◎“あたまがふくしまちゃん”グッズの販売店（施設）を募集しています。

いくつかの施設でグッズ販売（委託・買取）を行っていますが、さらに販売して下さる施設を募集しています。新年度には新しいグッズも登場します。グッズの製造販売で工賃アップを目指しましょう。

◎平成26年度（第21回）通常総会を開催します。

通常総会を次の日程で開催しますので、是非ご出席くださるようお願いいたします。

- ・日時 平成27年5月29日午後1時15分から
- ・場所 福島市民会館大ホール

◎訃報

平成26年4月から経営相談員を務めておりました、伊藤秀樹様が同年12月25日病気のため急逝しました。12月の会合では元気な顔で一緒に談笑していた姿が忘れられません。相談で訪問した施設からは大変親しまれ、指導の成果が実を結んだところもあり、これから益々手腕が期待されていたのに誠に残念です。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



編集後記

振興会だよりの発行が、各種行事が重なり予定よりだいぶ遅れてしまいました。施設紹介の原稿を提出して下さった皆さん大変申し訳ありません。お陰で今年度の新しい話題を新鮮なうちに届けることができました。…これはただの言い訳に過ぎませんね。

まもなく東日本大震災から丸4年になります。全国から寄せられた支援販売も年々減少してきていますが、震災当時から今も製品を注文して下さる施設・団体・個人の皆さんがおります。福島を忘れない強い絆を感じ励まされております。

事務局